

重い病気を持つ子どもたちへ笑顔を届けませんか

私たちこどものホスピスの活動は、皆さまからの寄付と、専門スタッフ・地域ボランティアの方々による運営で成り立っています。皆さまからいただいた寄付は、私たちのプロジェクトの活動のために役立てさせていただきます。



「TSURUMI こどもホスピス」
へのご寄付を募っています。

スマイルサポーター

個人の方

¥6,000/年

企業や団体
の方

¥100,000/年

かざして募金

携帯から



「かざして募金」アプリをインストールし、ロ
ゴに携帯をかざして携帯の支払口座から寄付
できます。

*Softbank を利用の方は通話料の決済口座から支払い可能です。
docomo、au の場合はクレジットカードで支払い可能です。

PCから

こちらのサイトからお手続ください。

[http://ent.mb.softbank.jp/apt/charity/sp/
creditSelect.jsp?corp=123](http://ent.mb.softbank.jp/apt/charity/sp/creditSelect.jsp?corp=123)



寄付型自動販売機設置について

寄付型自動販売機とは、日本財団のご協力による夢の貯金箱（自動販売機）のことです。ご自宅や店舗・施設に「こ
どものホスピスプロジェクト」オリジナルデザインの自動販売機を設置・置き換えることで、1本10円が「こども
のホスピスプロジェクト」に寄付される仕組みになっています。
設置・置き換えに関するお問い合わせは、「こどものホスピスプロジェクト」事務局までご連絡ください。



一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

名 称 一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

設 立 2010年12月24日

理 事 長 高場 秀樹

所 在 地 一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト事務局

〒542-0081 大阪中央区南船場4丁目12番8号 関西心斎橋ビル404 (株)エクスプレスエンス内

TEL&FAX:06-6252-3911 Mail:info@childrenshospice.jp

お問い合わせ先

TEL&FAX:06-6252-3911 <http://www.childrenshospice.jp>

ホームページでクレジットカード決済による寄付も受け付けております。



重い病気を持つ子どもと家族を、地域みんなで支えたい。 そんな場所をつくりたい。

「子どものホスピス」とは、重い病気を持つ子ども達と家族に
遊び・まなび・交流・癒しなど様々なプログラムを通じてかわる民間の活動です。
30年前に英国で設立された『ヘレンハウス』で始まり、世界に広がっています。

2009年に『ヘレンハウス』の創始者、シスター・フランシスを招いて

大阪で開催したセミナーでは〈Live Deep〉を合言葉に、
その活動に多くの方々から共感の言葉をいただきました。

2010年、シスター・フランシスが残した

〈Start small（できることから始めなさい）〉に呼応し、
「子どものホスピスプロジェクト」を結成。

子ども達や家族と、訪問、イベントなどの活動を少しずつ行ってきました。

そして、多くの皆さまのご支援のおかげで、

2015年「地域が支える子どものホスピス」開設が現実のことになりました。



大船 一美 (おほふね かずみ)
TSURUMI 子どものホスピス 館長
元 (社福) 産経新聞学生文化事業団・専務理事

明るく、楽しく、笑顔いっぱいの「お家」に
したいと思っています。そして、ちょっぴりわがま
まも言ってもらえる、そんな館長を目指してい
ます。多くの子どもたち、兄弟姉妹、お父さん、
お母さん方との出会いを楽しみにしています。

5つの特別な場所

1. 安心して過ごせる特別な場所
2. 普段出来ない事が実現できる特別な場所
3. いろんな人たちのつながりを感じられる特別な場所
4. いつでもありのまま過ごせる特別な場所
5. そして、病気であることも忘れられる特別な場所

6つの誓い

1. 私たちは、より生命の限られている子どもとご家族を優先します。
2. 私たちは、より社会資源の届かない子どもとご家族を優先します。
3. 私たちは、子どもとご家族を友人のような温かさで迎えます。
4. 私たちは、多様性に富んだ個別の対応を心がけます。
5. 私たちは、どの子どもやご家族ともフェアな関係を築きます。
6. 私たちは、子どもとご家族とともに深く生きるべく行動します。



高場 秀樹 (たかば ひでゆき)

子どものホスピスプロジェクト 理事長
1-10 HOLDINGS inc 代表取締役専務
「重い病気を持つ子どもや家族が気軽に集
える場所をつくりたい」という思いから、始
まった取り組みが形になる事は本当にうれ
しい限りです。そして、優しい地域を体现
する秀逸なモデルとなれたいと思っています。



多田 羅 竜平 (ただら りょうへい)

子どものホスピスプロジェクト 常務理事
大阪市立総合医療センター緩和ケアセンター部長
子どもたちと家族が、アットホームな
環境の中で、安心して楽しく心を癒か
時間を過ごせる「大切な場所」をたく
さんの人たちが力を合わせて準備して
います。



花本 眞 (はなきま まこと)

子どものホスピスプロジェクト 理事
重い障害や病気の子どもたちの学びの
居場所として、いろいろなニーズに応えら
れる建物として、また就学の相談、教
育の相談などのできる場として。



西出 由実 (にしでゆみ)

TSURUMI 子どものホスピス 看護師
家族みんなと一緒にいたい。温かくな
りたい思いを出を作ったり、たまには一人
でスポーツしたい。子どもたちとご家
族のなくさんの「当然の願い」を叫べ
るお手伝いができればと思っています。



原 純一 (はら じゅんいち)

子どものホスピスプロジェクト 副理事長
大阪市立総合医療センター 副院長
たとえ短い命でも、子どもとして輝い
てほしいというのが私たちの願いです。



岡崎 伸 (おかさき しん)

子どものホスピスプロジェクト 理事
大阪市立総合医療センター小児神経内科副部長
子どものホスピスでは、子どもたちとその家
族の思いを聞いて、たくさん「あそび・ま
なび・おしゃべり」等を一緒にできると
思っています。そして、そう、お父さんに
「Happiness」な時間を創られたいと思います。



水谷 綾 (みずたに あや)

ボランティアコーディネーター
(大阪ボランティア協会)
TSURUMI ボランティアには、子ども
が子どもらしく生きられるため、彼らのニ
ーズを受け止め、ご家族の思いを調べたせ
るような活動をともにやっていただくこ
とを期待しています。



坂下 裕子 (さかした ひろこ)

遺族支援チーム ピリール
お父さまを見送られるご家族の傍らに、
そっと添わせていただきたいというの
が私たちの願いです。どのような感情
も、つぶやきも、涙も、無言の沈黙も、
いろいろな大切にしながら、同じ悲し
みを経験してきた親として。